

# たかが川柳 されど川柳 (十七)

上野 一彦

## 徒然なるままに

人は生まれ、そして死んでいく。人の死なぞさして珍しくもないのだが、近年、同じ時代に生まれた著名人の鬼籍入りをよく目にするようになった。それだけ死が身近になったということかもしれない。最近、自分のことを紹介する場では、「私は最近亡くなった樹木希林や田村正和と同じ年生まれなんです」とまず語って周りの反応を見ることがしている。

樹木希林は美人ではない。少なくとも私の美しい人の範疇には入っていない。だが素晴らしい女優であるという意味では私の心の中では特別枠に入っている。人間としての

私は娯楽の少ない世代に育ったせいか映画が好きであった。一介のサラリーマン家庭に育った私は、両親とよく映画を見に行った。父は自分のペースを崩さぬ人間であり、子供向けの良い映画等少なかった時代、幼い私も両親に陪同されての鑑賞だった。大人の接吻シーンなど、思わず手で顔を覆い、指の間からのぞき見をしていたませた子供でもあった。母と恵比寿で観た「ローマの休日」でのオーディリー・ヘップバーンは、世界の恋人から私の恋人になった瞬間でもあった。

確か中学一年のころではなかったか。当時の南極探検隊にわずかな寄付を父とともに新聞社に行った帰り道、父と日比谷で観た「暴力教室」という映画で、主役の青年がガラス戸を打ち破って逃げるシーンがあった。その瞬間、皮膚に細かく血が走る場面などを鮮明に覚えている。ガラス窓を突き破るシーンはほかでも見ないわけではないが、そんなにきれいに割れるものではない。帰宅してから「そんな映画を！」と父は母に叱られていた。

そういえば、小学校の頃、社会科の授業で「娯楽」という言葉がテーマになっていた。先生が娯楽の中に「映画」というのがあって、「なぜ、映画を見に行くのか」と問われたとき、得意げに「家にいてもつまらないから」と答えた。家に帰ってその話をしたら、なぜか母に叱られた。大

生き様にも、死に様にも深い感銘を受ける。ああは生きられないが爪の垢でも、煎じて飲みたい部類の人間である。

一方、田村正和は二枚目俳優坂東妻三郎の三男、生まれついていたイケメン俳優である。私は渥美清や佐藤二朗のような、どちらかというところ「ぶ」のついた男優が、人間として安心できるので好きである。世の中は俺で成り立っているといわんばかりのイケメンよりも、どこか哀愁のある、それでいて尽くすタイプというか、まめな男のほうのはるかに好きなのは、劣等感の裏返しかもしれない。

## 勝ちましたイケメンよりもママ男

人の世界は難しいなと感じたのもそのときだった。

## 陽だまりに母の歌声耳の奥

《\*印象的な情景を捉えているが、「陽だまり」と「耳の奥」と場所を示すことばが二つあると、印象がゴツゴツして散漫になる。「陽だまりに母の歌声今もあり」ぐらいにあつさり仕上げたほうが良かったのではないか。》との短評をいただいた。

マザコン呼ばわりされたくはないが、「あなたマザコンなんじゃない」といわれたことは確かにある。確かに自分はその疑われても、実質ひとりっ子育ち（病身のきょうだいはいたが）であったので致し方ない。母は教育ママであると同時に肝っ玉母さんでもあった。

母の死に接した中高時代の友人が、「上野のお母さんは俺たちのおっかさんだったな」と言ってくれたのは最高の弔辞だった。母は私の友人をいつも大切にしてくれた。兄弟に恵まれなかった私へのせめてもの償いだったのかもしれない。

先日も同じ友人にたまたまお彼岸の墓参りの話題をメールしたところ、「母上の優しい笑顔を思い出したよ」との返事が返ってきた。もう一〇年も経つというのに。

大学時代からの親友O氏にも同じ匂いにする。振り返っ

てみるとついこんな句を詠んでしまう。  
亡き母の面影淡く残す君

コロナ雑感

人類の歴史はウイルスとの戦いだったと、前にも書いたが、それにしても今回のコロナ体験はいろいろな意味でたくさんの課題を私たちに教えてくれた。確かなことは、洞察力をもった政治判断というものをわが国のリーダーたちに見ることはなかったという事実を残して。

第何波とはいいが、その波も不思議なことに突然引いていく。まるで「もういいでしょう」といわんばかりに。

感染は正規分布を繰り返す

訳わからんコロナも疲れ減っていく

そうした中、ステイホームと自粛だけを言い続けた挙句、東京都の知事はついに、「自分の身は自分で守れ」と偉そうに言った。

神戸女学院大学名誉教授で思想家の内田樹氏が、東京都の新型コロナウイルスのモニタリング会議において「制御不能な状況」「自分の身は自分で守る」などの発言があったことについて、戦時下の軍の指揮官の言葉を引用して解説するツイッターでの文章を詠む機会があった。

願わくばポツクリコロリ順序よく

◇歳とれば誰でも願うのはこの言葉である。チューブ等で全身をつながれての延命措置などまっぴらごめんである。かつて「見送りの友のいるうち発つが花」という句を詠んだが、自分の最期の姿を思い浮かべるようになってきた。

ユーチューバー恥を晒して点稼ぐ

◇小学生が将来なりたい職業として急速に伸びてきたのが「ユーチューバー」だそう。ユーチューバーとは、動画共有サイト (YouTube) 上で自主制作の動画作品を継続的に公開している個人および組織と定義され、その中でも特に YouTube チャンネルに重点を置いて活動している配信者たちを指すそう。なかには話題をさらおうと、己の恥をさらすことをいとわず蟹蹙をかうことも多い。

題詠「豆」

豆嫌いアンコとトーフだーい好き

◇私自身、子どものころは嫌いだった豆類が歳をとるとともに好きになった。おまけにもともと好きだった餡子や豆腐も、原材料が豆だと知って増々好ましい食品となった。

納豆も醤油も親はみな同じ

◇前句と同趣旨。

勝ちましたイケメンよりもママ男

◇冒頭のエッセイで紹介。

氏によれば、戦争において戦線が崩壊したり、あるいは乗っていた船が沈没したりするときに、最期に指揮官は『Save qui peut (生き延びられる者は生き延びよ)』と宣言するそう。『もうこのあとはいかなる指示にも従う必要はない。この後、生きるか死ぬかは自己責任』という意味だという。『制御不能、自己防衛』というのはそういうことなのだそう。

われわれが感染しても、重症化しても、後遺症が残っても、死んでも、国も都も『これから後は自己責任だ』という告知をしたわけで、これが我々の命と財産を預かる政治家の言葉だとすれば、深い絶望を感じるのは私一人ではないだろう。

ついに自分を守れ自分の身

制御不能こんな人たち選ぶとは

たかが川柳 されど川柳 (二〇二一年上半期)

(川柳同人「ばらばらⅡ」「多年草」等に発表した拙句を短評付きで載せています。)

一月

ばらばらⅡ 一〇号

多年草 一三七号

箱根山見事コロナをござう抜き

◇コロナ騒ぎの中、恒例の箱根駅伝。応援無用とはいいながら今年もまた山の神が見事な走りっぷりを見せた。コロナなどどこ吹く風である。

責任をひっかぶるため秘書がいる

◇政治家は不祥事が勃発すると「秘書が、秘書が」と責任を逃れようとする。たとえ法的責任を逃れたとしても十分にグレーなわけで、道義的責任は免れ得ない。そんなことも百も承知の厚顔ぶり。まったく嫌になってしまう。

外にでる猫をにらみつ自粛する

◇ひと様はコロナ禍に合って自粛自粛のオンパレード。そうした飼い主を横目に堂々と飼い猫は表をほつき歩く。うらやましい限り。

題詠「最高」

雨のち曇りやと笑った妻の晴れ

◇家庭内にも雨風はある。家内の笑顔は家庭の太陽。幸せの原点である。

熱もない味も匂いも大丈夫

◇毎朝目覚め、体調、特に熱と味覚異常のないことを確認し感染していないと安堵する。

最高が最低となる男女仲

◇恋愛は至上の喜びと最悪かつ無残な悲しみ、憂いの両極を行き来する。その激しさこそすべての芸術の源となる。

二月

令和柳多留第2集（日本川柳誌上大会）

家族にも別れ告げずに逝く無念

◇コロナ禍における別れの悲惨さは、臨終の床に寄り添えぬ家族の悲しみに代表される。せめて手を握られながら、感謝の一言でも述べたいと思うのは人間としての常ではないだろうか。

題詠「刻む」

ありがとう心に刻むダイヤ婚

◇五〇年、半世紀、それは素晴らしい人生であり、素晴らしい伴侶との思い出でもある。まさに自分の半身と化した人間模様というわけ。

核のない平和を刻む慰霊塔

◇広島、長崎、この思い出を決して風化させてはならない。人間ほどたぐいまれな記憶力を有しながら、同時にこれほど忘れっぽい生き物はいない。特に政治家という人種は大切なことを忘れる力があるようだ。

題詠「めでたい」

めでたいな今朝も匂いと味がする

◇生まれ変わるなんてことはないとは思いつつも、相手への最高の賛辞は「次の世でもまた君と出会いたい」。そう言われたお相手は心の中で「見知らぬ人としてすれ違いたい」なんてまさか思っちゃいないでしょうね・・・

題詠「密」

GOTO と禁三密がガチ競う

◇コロナ禍の行動のアクセルとブレーキ。このバランスが難しい。どっちが強くて社会はうまく回っていかない。

三密を避けて密会蜜の味

◇コロナ禍にあつて、耳タコの三密。密閉、密集、密接のうち、大勢での密会もカモフラージュとしてないわけではないが、やはり最後は密室での密接なお付き合い。これぞ究極の蜜の味とは、小説での世界ということにしておこう  
多年草 一三八号

世のなかに遅れまいとし鬼滅観る

◇大ヒット漫画「鬼滅の刃」のTVアニメ化の大ヒット。国内のみならず、全世界的に大きな話題に。劇場版映画は国内興行収入歴代1位の記録を更新し続けた。この世相昭和人の私にはわからない。でも世の中から見捨てられまいとして、鑑賞するも・・・

異種と森がオリパラとどめ刺す

◇新型コロナウイルスの発症は中国武漢といわれるが、その本体は

◇一月の「熱もない味も匂いも大丈夫」と同趣旨。

コロナ菌見えるメガネができたなら

◇見えぬということは様々な風評に脅かされ実に不愉快。もしもコロナ菌が見えるメガネがあったらと思うのだが、見えた見えたでそれもまた怖いが・・・

題詠「褒美」

ご褒美は妻の笑顔と熱いお茶

◇家庭に何の煩いもないということは素晴らしいことである。そしてその中心はカミさん。カミさんは我が家の太陽であり、本当の神なのだ。といいつつ忘れがちではあるが、

自分への褒美がまねく肥満体

◇自分へのご褒美は、仕事を頑張った人がよくつぶやく言葉。そう言い訳しながら、つつい甘いもの、おいしいものに手が出てしまう。結果は歴然、体重計がそれを示す。後悔先に立たずである。

題詠「ラッキー」

諦めた落とし財布すぐ届く

◇わが国の美德の一つに、落し物が無事落とし主に届くということがある。海外からの観光客にとって、これは奇跡の一つとニュースにもなる。この美德失われぬことを祈るばかりである。

来世はあなたと私すれ違う

次々と姿を変え（変異株）、勢いは容易に衰えない。そうした中、政治的な判断でたくさん矛盾を抱えながら東京オリパラは強行されたが、その難産の源は、コロナの変異株と森、元首相の失言だった。

失言の源泉まもる永田村

◇湿原ならぬ失言が目立つのは緩み切った最近の永田町の政治家。その失言を得意の付度で守ろうとする村の伝統には心底うんざりする。

題詠「止まれ」

上級と思ひ込んでのご乱行

◇上級公務員という言葉が話題になっている。同じ交通事故を引き起こしても、それが痛ましい死亡事故であったとしても逮捕もされない案件が続いた。どこかに思いあがりがあるのではないだろうか。

進めより止まれを告げる友が減り

◇耳障りの悪いことでも注意してくれるのが真の友。歳とともにそんな友達が減っていく。暴走を止めてくれたあの友も今は鬼籍に入ってしまった。残る友は妻だけか。

この指に家族みんながとまっていた

◇この指とまれ！家族がみんな私を頼りにしていた。いつの間にか立派に育って私から離れていってしまった。それでいいのだと思いつつも・・・

三月

ばらばらⅡ 一一号

美容院今日一日はスターです

◇美容院でも美容院でも「どんな髪型にしますか？」といわれ、ちよつと照れながら、お気に入りの映画俳優の名前を言ったりする。照れくさいので渋い外国のスターの名などあげたりするが、ともかくその日一日はハッピーである。

新ウィルス不要不急を仕分けする

◇新型ウィルスの蔓延により不要不急の外出は避けてくださいと始終言われる。人それぞれによつて不要不急の意味は異なる。老人にとつてはご近所の散歩だつて健康維持のための必要必須の外出なんです。

散り際にしぶとく残る花ひとつ

◇最後の一片ではないが、一つ一つと枝を離れる花も葉も、最後のひとつはなぜか頑張る。人もそうかもしれない。ただ最後には最後の覚悟と寂しさがあるのだろうか。

題詠「民(字結び)」

民主主義伝えし国は今いずこ

◇わが国に民主主義を伝えた某国。その大統領の質の悪さに全世界があつけにとられた。歴史にはこうしたことが必ずあるようだ。だから我々は歴史を学ばなければならぬ。

◇ある夏の夜の縁側での淡い思い出。なんて想像を逞しくすると胸がきゅんとすることはありませんか。

これも縁 妻の寝顔をじっと見る

◇隣で軽いいびきをかいて寝ている老妻。その寝顔を見ていて「縁の不思議さ」をしみじみ感じる。その逆のこともあるのかな。

縁結びこんがらがればスキヤンダル

◇男女の仲はうまくいけば縁が結ばれる。しかし多くの場合、必ずしもそうはならない。昨今の男女の付き合い、二股三股なんていうことになるスキヤンダルに発展することも大いにあるわけ。

四月

多年草 一四〇号

また君の泳ぐ姿に金メダル

◇水泳選手、池江璃花子の白血病によるオリンピック戦線離脱は大きな衝撃を与えた。それだけに、一年延びた五輪の開催にはいろいろ意見があつたが、彼女のまた泳ぐ姿は人々に大きな感動を与えた。

政治家のエゴを撃ち抜く文春砲

◇次々に政治の世界の不祥事を暴き出す文春砲。日本に週刊誌はただ一社だけなのかと思うほどである。その取材力

のだろう。

国民と人民の間の大きな差

◇民主主義か共産主義か、国家の形態によつて国民と言ったり人民と言ったりする。そんなわずかな違いが、大きな違いにつながるような気がする。

多年草 一三九号

棺桶にワクチン券も入れといて

◇コロナのワクチンは十分確保されているという。しかし、電話をしても、PCもスマホもなんでこんなに通じないのだろう。その申し込みにかけるエネルギーの総量はどれほどになることだろう。

接待は官僚たちの踏み絵です

◇利益につながる企業とのつきあいにはそれを監督する側の人間には細心の注意が必要だと誰しも思う。でも最近の官僚はそんな接待もバレたら金を返せばいいぐらいにしか思っていない節がある。

都合よく使いまわされ専門家

◇「専門家の意見をうかがつて」とはいうものの、自分たちにとつて都合の良い理由づけのために彼らを利用して。どっちもどっちという気もするが。

題詠「縁(字結び)」

縁側であの日あの時あの人と

には思わず頭が下がる。現代版、鞍馬天狗。

自肅下に夜逃げのように小旅行

◇GOTOトラベルは停止され、ただただステイホーム。ワクチンも打ちたいがその準備も整ってない。精神衛生に悪いので東京の奥座敷、箱根にこっそり出かけた。それも夜逃げのように。

題詠「じわじわ」

無理はダメ軋む身体が告げている

◇後期高齢者になると怪我でもしようものならなかなか完治しない。これからはどれだけ持たせるかの段階に入ったことをひしひし感じる。

羞恥心接待漬けで麻痺して

◇官僚と業者とのただならぬ関係。接待を受けているうちに羞恥心も罪悪感もマヒしていく。人間なんて弱い動物です。

自肅自肅こころ縮んでヒビ入る

◇コロナ禍、自肅自肅とオウムのように言い続ける行政。後手後手と誇られても相変わらずのノンアイデア。縮んだこころは固くなり、やがてヒビが入ってしまう。

五月

ばらばらⅡ 一二号

メダルより生きる尊さ教える娘

◇メダルなんてどうでもいい。璃花子さん、君の元気に泳ぐ姿がまた見られただけで、どれだけ大勢の人に勇氣と感動を与えたことか。

ワクチンはお先にどうぞ副作用

◇ワクチンには副作用（反応）があると針小棒大に言う人がいる。でもその副作用よりも感染する方がはるかに怖い。

パンドラの箱に残るはワクチンか

◇一年を超えるとあらゆる災いのものであるパンドラの箱もほぼ空っぽ。結局最後に残っているのは希望という名のワクチン。

題詠「品（字結び）」

品川は舟と宿から飛行機へ

◇品川宿といえば海沿いの船宿、それが今や羽田飛行場への玄関。この変化江戸時代の人が見たらどう思うだろう。

人生の澱（おり）が醗酵 品となる

◇人間の「品」とはどのように作られていくのだろうか。多分、人生の澱が様々なプロセスを経て発酵した結果出来上がっていくのではないだろうか。最高の発酵食品。

隠してもこぼれ落ちるよ品のよさ

◇どことなく品の良い人がいる。その品は隠しても隠しても自然にこぼれ落ちてくる。できればそうした人とお付き合いたいものだ。

多年草 一四一号

外せないマスクは顔のパンツです

◇今やマスクは外せない。マスクを着けていないとむしろ恥ずかしい。まるで下着のように。そこで一句。だが評判は芳しくない。

選挙向けワクチン探し右左

◇選挙が近いせいか、ワクチンがすべてを解決するといわんばかりの楽観論が政治家の口から発せられる。その肝心のワクチンもどうも足りないらしい。ワクチンを回さなければ経済も回らない。

TVには防災服を着たオオム

◇感染の目立つ地域の知事たちは、そろいもそろって防災服に身を包み、「やってます」感を出す。そして自粛自粛とオオムのようにただただ連呼する。

題詠「AI」

AIを越えて若者将棋さす

◇将棋世界では、藤井聡太君の快進撃が続く。AIを利

用する棋士も増えてきたが、藤井君はときにそのAIをさえ超える手を指すという。

書き換えの機能搭載政府ロボ

◇AIの進歩進出が著しい。もしも政府がそれらを利用するとしたら、付度し書き換える機能も必要なのではないか。

その手順間違えてこそ人の機微

◇機械はエラーをしない。しかし人間にエラーが付き物。エラーがあるからこそ人間らしいともいえるという逆説的意見。

六月

多年草 一四二号

ワクチンの予約が取れて丸くなる

◇ワクチンの接種券がやっと来たがそこからが大仕事。なかなかPCもスマホも電話もつながらない。家族総出で連絡しまくってやっととれたことが美談としてニュースになる。一人暮らしの人はおいてきぼりかい。そんな狂騒曲も、やっとこさっとご予約が取れると急に人は穏やかになる。

父の日にワクチンも無くひとり飲み

母の日のついでに、とってつけたような父の日なんて

◇母の日のついでに、とってつけたような父の日なんて・・・今年は何にもない。自分で自分を祝うことを寂し

題詠「柱」

子が育ち大黒柱やせ細り

◇一家の大黒柱と頑張ってきたお父さんも、子どもたちに脛をかじられ、やがてその子どもたちが自立していくとすつかりやせ細ってしまう。太るのは腹ばかり。それ

杜の柱 おだてられたがそれ墓標

◇君は会社の星だ、柱だとおだてられた日もあったが。いつのまにかその柱は墓標と化しているという怖いお話

柱時計 静かに消えていきました

◇ファザークロック、チックタック、チックタック。いつか振り子の動きも止まり、飾り物となり、そして消えていく。